

平和への願い

私にとっての「平和」とは、何か特別なことではなく、ごくごく当たり前のことでした。今回、慰霊祭に参加するにあたって、今は平和な都城市にも大空襲があったということを知りました。

1945年8月6日、この日の昼から夕方にかけてアメリカ軍による空襲が都城市街を襲いました。都城市の上空には、アメリカ軍の戦闘機が現れ、焼夷弾の投下や機関銃での攻撃が4時間にわたり繰り返されました。当時の都城市には、飛行場や工場があったほか、軍隊の基地もあったため、攻撃の標的になってしまったそうです。この空襲で、亡くなった方は56名、家を焼かれたりして被害を受けた人は1万7千人以上にのぼるといわれています。現在の都城市からは想像もできないような悲惨なことが、80年前に起こったのです。私はこのことを知ったとき、戦争の悲惨さやむごたらしさで胸が締めつけられました。

第二次世界大戦でこういった空襲の被害を受けたのは、都城市だけではありません。特に大きな被害を受けたものとして、都城大空襲のあった8月6日に広島、9日には長崎にも原子爆弾が投下されました。それは一瞬ですべてを飲み込むほどの威力を持ち、投下後も放射線によって多くの人々に長く続く苦しみを与えました。

この戦争において日本は、多くの人が犠牲になり、尊い命や何気ない日常を奪われ、世界で唯一の被爆国となってしまいました。今日においても、日本は唯一の被爆国です。第二次世界大戦以降、被爆国こそ増えてはいませんが、核兵器はなくなっていない。核無き平和な世界の実現に向けて、唯一の被爆国である日本に生まれた私たちは努力し続けていかなければならないと思います。

終戦から80年経った日本は、とても平和です。しかし、パレスチナ・ガザ地区での軍事衝突も起こり、ウクライナでの戦争は今もなお続いています。私の曾祖父は、第二次世界大戦中に中国へ8年間、出征していました。生前、曾祖父は私の父に、戦時中の話をよくしていたそうで、いつも話の最後には「戦争だけは絶対にしちやいかん」と口にしていたと聞きました。実際に過酷な戦時中を生きた曾祖父の平和への願いを伝え続けていくべきだと思います。

終戦から80年が経ち、戦争を経験された方々はとても少なくなりました。戦争という悲惨なことを二度と起こさないように、これからの日本を担う私達が常に平和について考え、行動し続けていこうと思います。

最後に、戦争によって亡くなられた方々の安らかなご冥福を心よりお祈りいたします。

都城市立妻ヶ丘中学校
生徒代表 大橋 ゆい